

知ってほしい結核のこと

2015年3月発行

結核と聞くと、どのようなイメージを持ちますか？

「一昔前に流行った病気」、「お年寄りに多い病気」だから、「普段通りの生活をしていれば、自分には関係ない」と思っていませんか？

実は、結核は今も世界中で流行している「現代の病気」なのです。

これから結核をなくすために重要なことは、みなさんに結核について正しく理解してもらうことです。

結核は過去の病気？

結核は細菌の一種である、結核菌 (*Mycobacterium tuberculosis*) が原因の病気です。結核菌を染色（チール・ネルゼン染色）すると、赤い糸のように染まります（図1）。

結核は過去の病気と思われがちですが、今も世界中で流行しています（図2）。

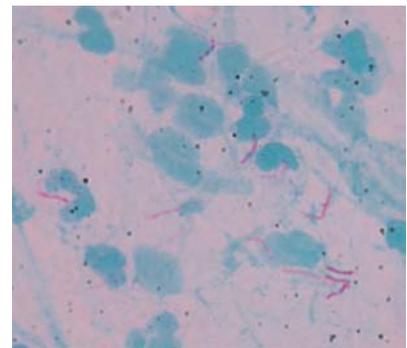


図1 結核菌の顕微鏡写真
(チール・ネルゼン染色)

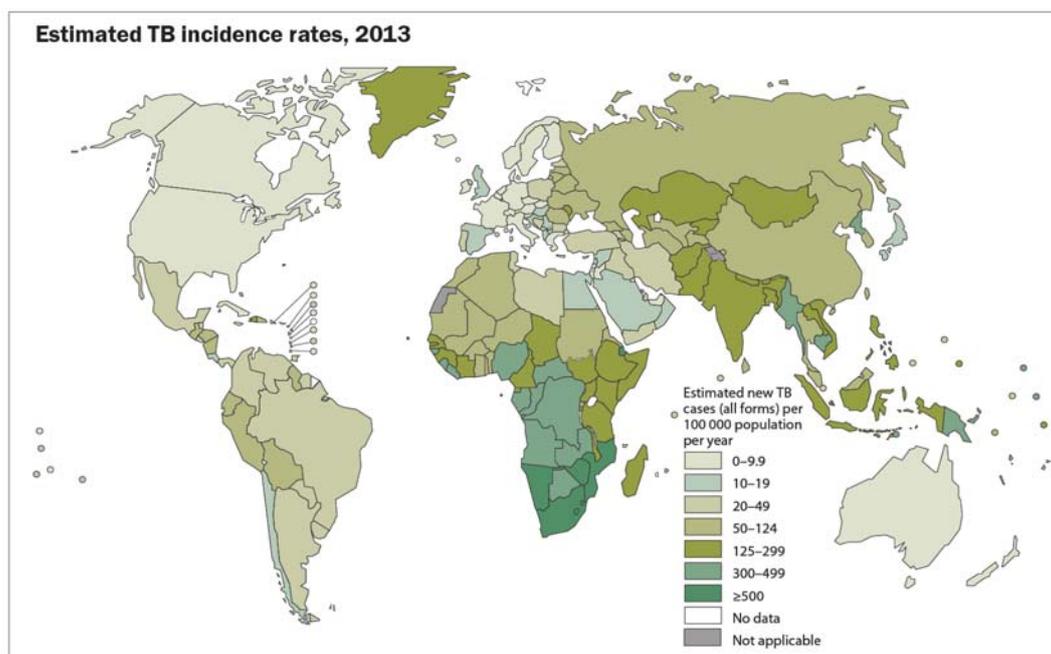


図2 新規結核患者の割合

(WHO Global Tuberculosis Report 2014 より)

日本の現状は？

1950年より以前、結核は日本人の死因トップであり、患者数は年間60万人以上、死亡者数も年間10万人以上で、「国民病」として恐れられていました。その後、治療薬の開発や衛生環境の改善などにより、患者数は減少していきましたが、今なお国内で年間2万人以上の患者さんが発生しているのです（図3）。

日本における結核の罹患率*1)は、「低まん延国」とされる他の先進諸国と比べると今も高い状態で、アメリカと比べると5倍以上も高くなっています（図4）。

*1) 罹患率：一年間に発病した患者数を人口10万対率で表したもの

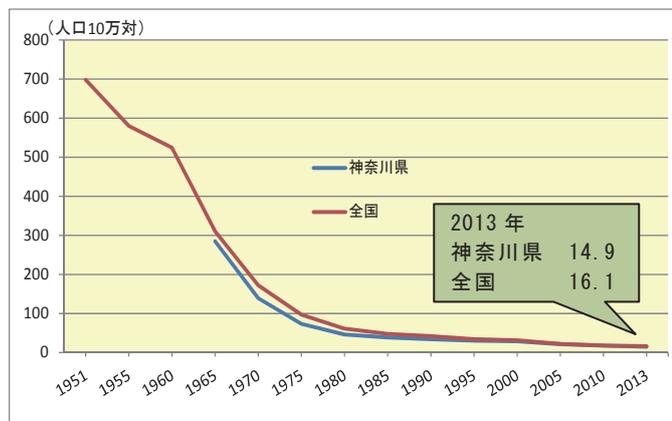


図3 結核罹患率の推移

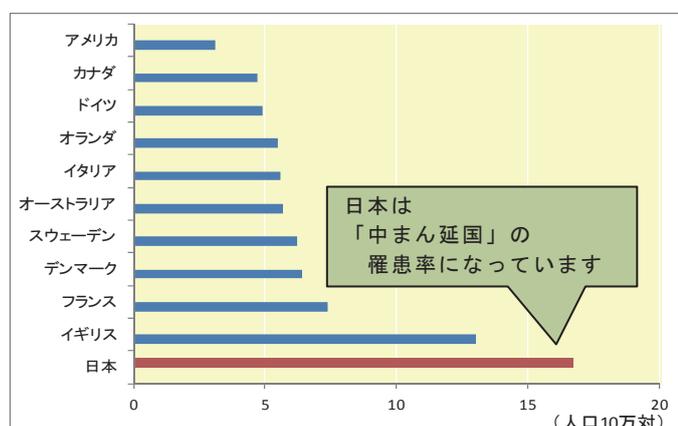


図4 先進諸国の結核罹患率（2012年 厚生労働省）

結核ってどんな病気なの？

結核は、結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。咳やくしゃみに含まれる結核菌が空気中に舞い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します。

たとえ結核菌に「感染」*2)しても、必ず結核を「発病」*3)するわけではありません。多くの場合（約9割）、免疫力によって結核菌の増殖を抑え込み、発病までには至りません。しかし、様々な原因により免疫力で増殖を抑えきれなくなると、結核を発病してしまいます（図5）。

*2) 感染：結核菌が体内に存在している状態です。しかし、菌の数は少ないため症状がなく、人にうつす心配もありません。

*3) 発病：結核菌が体内で増え、発熱や咳など症状が現れた状態です。さらに菌の量が増え続け、症状が進行すると、咳や痰によって結核菌が体の外へ排出され、人にうつす危険性があります。

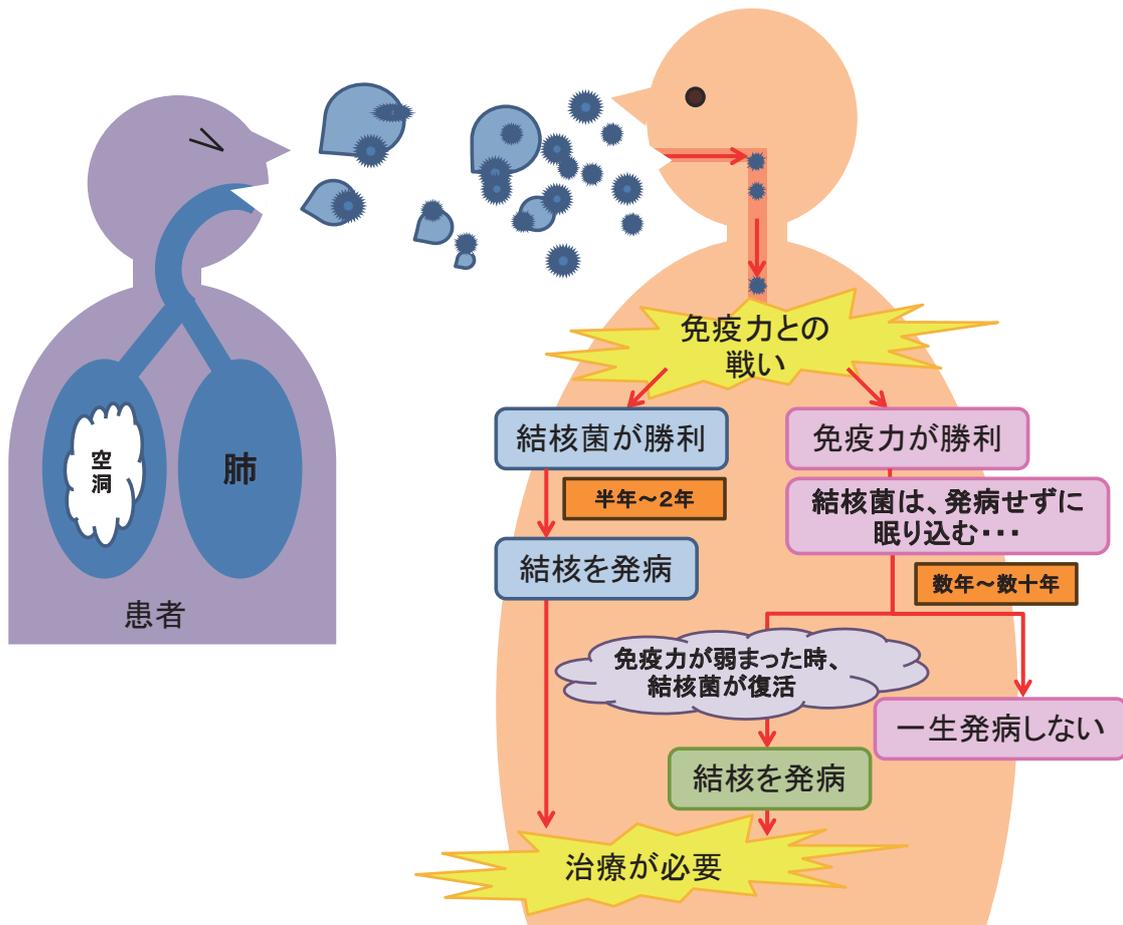


図5 結核発病のメカニズム

(公益財団法人結核予防会資料を基に作成)

若い人も、元気な人も・・・

神奈川県における新規結核患者の年齢別割合（2013年）をみると、70歳以上の高齢者の割合が高くなっています（図6）。しかし、若い世代の感染も決して少なくはなく、学校などでの集団感染例も見られています。また、働き盛りの世代では、病気の発見が遅れることが多いことも問題になっています。すべての年代において、結核は他人事ではありません。

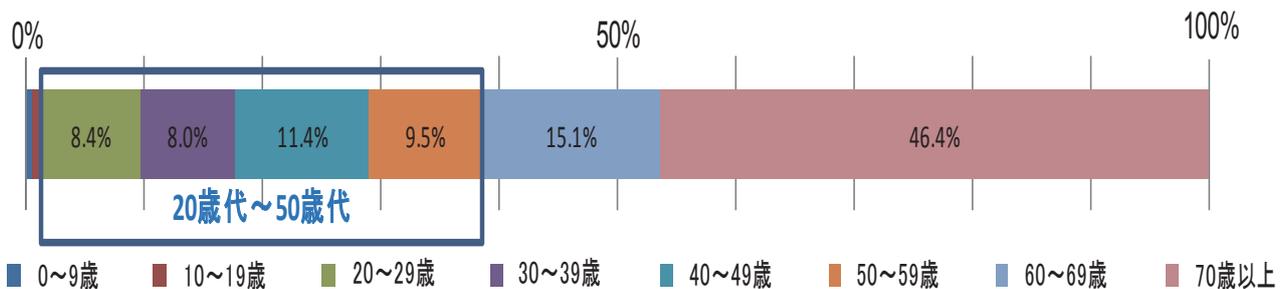


図6 新規結核患者の年齢別割合（2013年 神奈川県）

結核を予防するには？

結核菌の大きさは市販のマスクの穴より小さいため、残念ながら感染そのものを防ぐことができません。そこで、結核菌に感染しても発病しないように、普段から免疫力を高めておくことが重要です。睡眠は十分にとり、バランスのとれた食事、適度な運動、禁煙など健康的な生活を心がけましょう。

また、乳幼児は免疫力が弱いため、結核に感染すると重症化し生命に関わる危険があります。遅くとも1歳になる前に、必ず、BCGの予防接種を受けましょう。国が示す標準的な接種期間は、生後5カ月から8カ月の間です。詳細については、お住まいの市町村へ確認してください。

もし結核を発病したら？

結核と診断されても、恐れることはありません。6ヶ月間（最短）を目安に薬を飲めば、完治できる時代になっています。ただし、薬を飲み忘れたり、症状が消えたからといって途中で服薬を止めたりすると、結核菌自身が抵抗力をつけ、薬が全く効かない「多剤耐性菌」になってしまう危険性があります。毎日きちんと服薬し、治療は最後まで必ず受けましょう。

また、結核の最も怖いところは、「結核と気づかないまま、周りの人にうつしてしまうこと」です。結核の症状は風邪と似ていますが、「風邪とは異なるサイン」に気づいたら、早めに病院を受診することが極めて重要です。

＝ 結核を疑うサイン ＝

1. 咳や痰が2週間以上続く
2. 急に体重が減った

現在、日本で1日に56人の新しい結核患者さんが発生し、6人が結核によって命を落としています（2013年）。

結核を正しく知り、あなたと身近な人を結核から守りましょう。

（企画情報部 横田佐和）



神奈川県衛生研究所ホームページを
ご覧ください



衛研ニュース No.167 平成27年3月発行
発行所 神奈川県衛生研究所(企画情報部)
〒253-0087 茅ヶ崎市下町屋1-3-1
電話 (0467) 83-4400 F A X (0467) 83-4457
<http://www.eiken.pref.kanagawa.jp>

再生紙を使用しています。